

海水浴場におけるアメニティ施設に関する研究

九州共立大学工学部 学生員 ○入江 一行 阿部 真一 黒岩 伸之
正会員 小島 治幸

1. はじめに

従来海岸は、津波、高潮、海岸侵食などの海象に関わるさまざまな災害から国土を守るため重要な役割をになってきた。しかし、防災や開発利用にかたよっていた海岸も、環境認識が高まるにつれ、単に維持・保全するだけではなく、親水性やアメニティ性を重視するようになってきた。特に、海水浴場に関しては、レクリエーション性や利便性を兼ね備えた施設が求められている。そのような海水浴場を新たに創造するための基礎的なデータを得る目的で、本研究では、海水浴場を対象としてアンケート調査を行い、施設の実態を明らかにするとともに、どのようなアメニティ施設が評価されているか特定し、アメニティを高める諸施設の特徴を考察する。

2. 調査方法および解析方法

(1) 調査地域と方法

アンケート調査は、図-1に示す玄界灘、響灘に面する福岡県北部に点在する脇田海水浴場から新宮海水浴場および百道浜（マリゾン）に至る合計12箇所の海水浴場を対象とした。アンケートは、海水浴場の利用者がどのようなアメニティ施設に

関心があるかや、入場料および海岸整備・維持費の支払意志の金額を調査するため表-1に示すような設問11項目を独自に作成した。回答は、2～13個の選択肢を与えて、そのなかからひとつあるいは複数選択する形をとった。調査方法は、平成9年7月下旬から8月末にかけて、各海水浴場を訪れた利用者に無作為にアンケート用紙を手渡し、その場で回答してもらい、各海水浴場で100部をめどに回収を行った。また、海水浴場の既存の施設や駐車場の規模、海岸の性状等を調査した。

(2) 解析方法

回収されたアンケートのデータを各海水浴場単位で集計し、それをもとにした解析の段階において、海水浴場別や設問別、男女別さらに年齢別に分けた場合にどのような違いがどうかを比較した。

3. 結果と考察

アンケート調査を行った海岸ごとの海浜特性や駐車可能台数、海浜既存施設等の特徴を表-2に示す。各質問ごとの回答の頻度を図-2から図-5のようにいくつかの回答項目に分けてグラフに示した。

表-1 アンケート調査内容

設問	アンケート内容
1	この海水浴場に年に何回来ますか？
2	今回は何をするためにここに来ましたか？
3	この海水浴場を選んだ理由はなんですか？
4	利便性をよくするためどんな施設を望みますか？
5	海水浴施設としてどんな施設を望みますか？
6	海岸周辺施設としてどんな施設を望みますか？
7	快適な海岸にふさわしくないものがありますか？
8	入場料があるとしたらいくらまで出せますか？
9	海岸維持費として年間いくらまで出せますか？
10	海岸侵食整備としてどちらを望みますか？
11	海岸侵食整備のために年間いくらまで出せますか？

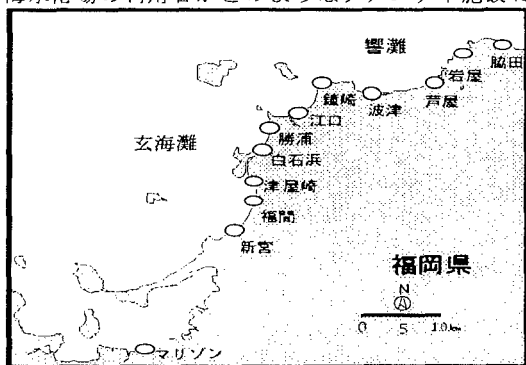


図-1 アンケート調査対象地域

表-2 調査対象海岸の概要

海岸名	前浜幅	後浜幅	前浜勾配	後浜勾配	中央砂深	自然度	最大浸入率	駐車台数	利便性施設	親水性	親水性
脇田	13.1m	15.8m	1/15.8	1/13.3	0.39m	50%	0.23	568台	トイレ・シャワー・足洗い場	さんぽ・ボードウォーク・救護救急室・保健科医務所	漁港
若狭	8.4	7.8	1/7.6	1/6.9	0.19	68	0.34	392	トイレ・海の家・有料休憩所	遠浅な浜	
若狭	19.4	28.2	1/13.9	1/35.2	0.16	0	0.23	1347	トイレ・シャワー・売店・海の家・更衣室	遠浅な浜・救助員・救護救急室・ウェータースライダー	プール・公園
津屋崎	8.1	42.4	1/6.8	1/14.0	0.15	68	0.23	295	海の家・レストラン・宿泊施設	遠浅な浜・救助員	
白石浜	8.4	35.6	1/6.0	1/12.2	0.64	39	0.15	270	海の家・レストラン・宿泊施設・トイレ・公衆電話・売店	遠浅な浜・ボードウォーク	
津屋崎	12.1	14.0	1/12.1	1/15.5	0.17	48	0.39	325	トイレ	遠浅な浜	
津屋崎	20.8	20.1	1/20.1	1/17.4	0.17	58	0.36	17	宿泊施設	遠浅な浜	
白石浜	18.7	39.8	1/8.9	1/23.4	0.33	58	0.36	110	海の家	遠浅な浜	
津屋崎	20.8	20.1	1/13.9	1/17.4	0.17	31	0.28	895	シャワー・更衣室・売店・宿泊施設	遠浅な浜	
津屋崎	9.5	17.2	1/9.8	1/8.9	0.54	31	0.28	357	レストラン	遠浅な浜	マリンスポーツ用品の貸し出し
新宮	20.8	20.1	1/13.8	1/17.5	0.17	31	0.28	677	トイレ・海の家・ゴミ箱	遠浅な浜	
百道浜東	7.9	43.9	1/6.4	1/33.3	1.08	0	0.13	275	トイレ・シャワー・更衣室・足洗い場・ベンチ・売店	遠浅な浜・浅瀬・ボードウォーク・遊歩道	公園・ビーチバレーコート
百道浜西	8.2	28.0	1/5.0	1/16.7	0.95	0	0.11	275	レストラン・水飲み場・ゴミ箱・公衆電話・日焼け服	救助員・救護救急室	

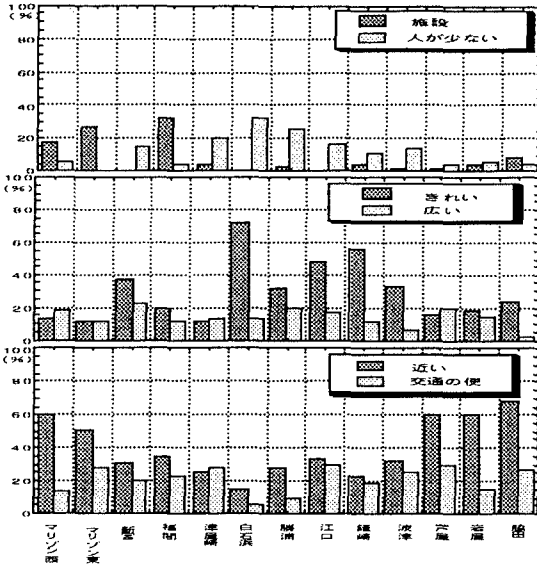


図-2 各海水浴場における設問3に対する回答

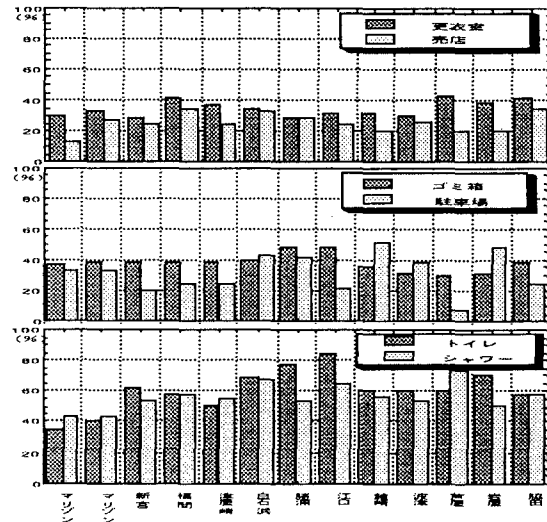


図-3 各海水浴場における設問4に対する回答

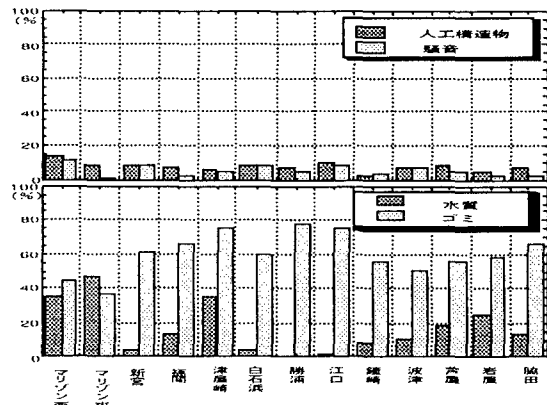


図-4 各海水浴場における設問7に対する回答

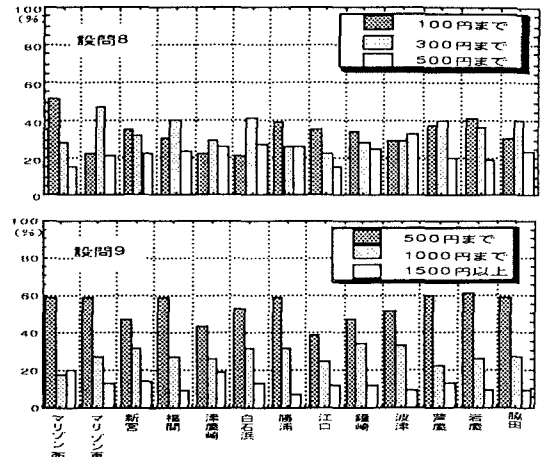


図-5 各海水浴場における設問8、9に対する回答

海水浴場の選択理由(図-2)については、距離が近いと回答した割合が福岡市や北九州市に近い海岸ほど多い。逆に、都市部から遠隔な白石浜や勝浦、磯崎等では「きれい」や「人が少ない」を回答する割合が多かった。

利便性を高める施設(図-3)については、全ての海岸において、トイレやシャワーなど公共的な施設の要求が最も高かった。マリゾンなどこれらの施設が整っている海岸でも、他の海岸と比べると割合が若干低くなっているが、要望の最も高い施設に変わりはない。ゴミ箱と駐車場が次に高い割合になっている。駐車場は、表-2で調査した駐車可能台数が多い海岸ほどの割合が低いのが特徴となっている。

快適な海岸にふさわしくないもの(図-4)としては、「ゴミ」と答えた割合がマリゾンを除くすべての海岸で圧倒的に多く、設問3の海水浴場の選択理由で「きれい」を回答した割合の多い勝浦や江口、白石浜などの海岸で特に高い値を示している。水質は都市部から離れている海水浴場ほど割合が低く「水質」が良いことを示唆している。人工構造物や騒音は比較的気にならないという割合が多かった。

入場料の支払い意志(図-5 設問8)としては、100円までの割合が多いが、施設や環境が良い海岸(マリゾン東、白石浜など)では300円までの割合が高いところもある。海岸の維持・保全の支払い意志(図-5 設問9)としては、全ての海岸において500円までという回答が高くなっている。

4.まとめ

アメニティー性を高める施設としては、外観やアクセス性より、海水浴として使用する為に身近に必要なトイレやシャワーなどの充実性が求められている。また海岸でもゴミ問題が重要である。